

## 第 15 回 NOMURA Award (特別協賛社賞) 受賞者コメント

---

### 筑波大学附属駒場中・高等学校 大野新 中学副校長

参加数 : 中学部門 5 回 / 高校部門 6 回

受賞履歴 : 部門賞 : 第 7 回、第 15 回 / 敢闘賞 : 第 12 回、第 13 回、第 14 回

(※中学・高校両部門での受賞履歴。第 15 回以前の受賞履歴を掲載しています)

### 受賞コメント

#### STOCK リーグ参加の経緯

日経 STOCK リーグには、第 7 回から参加しています。生徒がこの企画を見つけてきて、最初はよくわからないままに参加しました。思いもかけず、その時賞をいただいて校内で表彰披露をしたため、その後しだいに参加者が増えていきました。回を重ねるうちに、探究型の学習が好きな本校の生徒に合った企画だと考えるようになりました。本校では、中学 2・3 年生が総合的学習の時間でフィールドワークに取り組んでいます。中学 2 年では東京、中学 3 年では東北で行っています。班ごとに研究テーマをきめ、訪問先と交渉した上で実際に訪問し、研究成果をレポートやポスターにまとめて発表しています。STOCK リーグのレポート作成もこれと大変共通しています。逆に生徒が培ったノウハウを実際に試す場として STOCK リーグはとてもよい機会となっていると考えています。

#### STOCK リーグの取り組みについて

研究テーマの設定をしっかりと行うことが、レポート完成への重要なポイントだということがわかってきたので、時間をかけてテーマ設定をするように言っています。また、ネットだけの情報に頼る

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

ことなく、必ず実際の現場を訪問するようにアドバイスしています。最初、生徒はいろいろなテーマを出しますが、投資する企業が少なくテーマとして成立しない場合は、変更することもあります。生徒たちは、テーマに関するさまざまなことを調べた上で、企業を研究し、スクリーニングの切り口を見つけていくことができます。今回、中学・高校の両チームが行った学校や企業の訪問に一緒に行けたのはとてもよい経験でした。生徒の質問する姿を実際に見ることができて、生徒の成長を感じることができました。

## 参加を終えて

実は、私は社会科の中でも地理が専門なので、経済教育は門外漢です。専門的なことはあまりアドバイスできません。ただ、日々日本や世界のことを教えているので、世界の動きや経済のトレンドなどについてはある程度知識があります。生徒たちが作成したレポートの中でいろいろな見方・考え方を示してくれることで、自分自身にとっても勉強になることが数多くあります。専門的な知識がないからアドバイスできないとあきらめず、生徒と一緒に学んでいくという姿勢でのぞめばよいのではないのでしょうか。毎年レポートのしめ切り直前は苦労しますが、できあがったレポートを読むと大きな充実感があります。そして、STOCK リーグのよさは、レポートをきちんと審査していただけることです。審査員の方々からのコメントは生徒にとってとても貴重なものです。これからも取り組む生徒がいる限り応援していきたいと思っています。最後に、このような貴重な機会を与えて下さっている日本経済新聞社、野村ホールディングス、関係者のみなさまに感謝いたします。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

## 第 15 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

---

### 早稲田大学本庄高等学院 上田太郎 教諭

参加数 : 5 回

受賞履歴 : 部門賞 : 第 6 回、第 8 回（※第 15 回以前の受賞履歴を掲載しています）

#### 受賞コメント

#### STOCK リーグ参加の経緯

2005 年に担任クラスの有志生徒が参加したのが始まりです。校内で各種コンテストが幅広く紹介される中、日経 STOCK リーグは投資企業選定から分析・レポート執筆に至るまで、じっくり時間をかけて取り組めるところに魅力を感じてチャレンジしたようです。

2007 年からは経済や政治について学ぶクラブ「政治経済部」ができ、2 学期の活動の 1 つとして STOCK リーグを選ぶと数チームが参加するようになりました。1 年生が経済を一から学んだり、3 年生が卒業論文の中間内容をスピノフさせて成果を試したりと、生徒の目的はさまざまですが、参加後は誰もが高い達成感とともに多くの課題を得ているようです。

証券取引所の見学や企業との連携事業も適宜行いますが、これらに加え、教員が経済学的思考の魅力を丁寧に伝えて浸透させることが、STOCK リーグ参加者の裾野を広げることにつながると考えています。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

## STOCK リーグの取り組みについて

チームワークが大事なコンテストだと思います。参加を決めたメンバーには、一人ひとりが見解を持って議論し尽くすことを最初に促します。ただの分業ではなく、事実の解釈や因果関係の推論について、さらに自分たちの投資でどのような世の中を目指すのか、真剣に意見をぶつけ合うことを求めます。作業期間に入ると教員は口出しできませんから、動機づけと、事後の振り返りに力点を置いています。2回目の参加以降は、過去に参加した上級生や卒業生から、失敗も含めて体験談を伝えてもらう機会を設けるようになりました。視野の広げ方、分析の深め方、参加後の満足感など、具体的に語ってもらっています。

また、発表会をレポート提出後に行います。中間段階で行うメリットも大きいですが、作業全体を通して振り返る方が効果的と考え、生徒同士や卒業生らと意見交換するようにしています。この場で一度、私が余計なダメ出しを重ねてしまったことがあります。参加者がみな自覚できていたことばかりでした。生徒たちはSTOCK リーグから自ずと学び取ることができるのだと、大いに反省しました。

## 参加を終えて

どのチームも「自分たちだからこそ」の投資テーマを通じて社会を見つめようとしていることが何よりうれしく、仕上がったレポートを読むのが毎年大きな喜びです。周知の話題を独自の着眼点で

捉える、ニュースであまり馴染みのない企業にも注目し分析する、将来を長く見据えて展望するなど、STOCK リーグを通じて、生徒はさまざまな潜在力を引き出していると感じます。

株式投資や経済現象の理解、レポート執筆のスキル習得など、直接に期待できる効果は数多くあります。加えて、家族の仕事の大切さにあらためて深い思いを寄せる、毎日目にする風景を立体的に読み解き日々の変化に敏感になるなど、生徒の生活が一層豊かになる契機も、このコンテストには存在していると毎年振り返っています。

最後になりましたが、このような学びの場を与え続けてくださっている、主催・後援・協賛の各団体、ならびに運営スタッフの皆様に、これまでの参加生徒ともども、深く感謝いたします。

## 第 15 回 NOMURA Award (特別協賛社賞) 受賞者コメント

---

### 武相高等学校 宮越章子 教諭

参加数 : 高校部門 9 回 / 中学部門 5 回

受賞履歴 : 審査委員特別賞 : 第 11 回、第 15 回

(※中学・高校両部門での受賞履歴。第 15 回以前の受賞履歴を掲載しています)

### 受賞コメント

#### STOCK リーグ参加の経緯

ビジネス研究部という部活動を立ち上げ、活動の柱を模索していたときに、日経 STOCK リーグの存在を知りました。それ以前から経営シミュレーションやキャッシュフローゲームなどはやっていましたが、経済学習というよりはお遊びモードのほうが強くなってしまっていました。日経 STOCK リーグへの参加をきっかけに部活動のメインが企業研究になり、年間を通していろいろな方面から企業についての理解を深められるようになりました。それに伴って同じゲームをするのでも、現実社会をイメージして取り組めるようになったと思います。

#### STOCK リーグの取り組みについて

チームで1つのレポートを書くというのはグループワークが苦手な生徒にとってはなかなか大変なことでした。一人に任せて他の人は何もしないということがないようにサポートすることに一番気を使いました。生徒からは、協力しようという気持ちが次第に強くなっていったとの感想がありました。また、社会を支える会社の見方や、社会を見る目が変わったという声もあり、それが生徒に

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

とっての一番の変化だと思います。実は投資をした後に配分を決めたときのポイントの計算ミスが発覚し、あわてて売買をすることになりました。株価が動くのと、次の日にならないと売買の結果がわからないことで、なかなか思った配分にならず、期限が迫る中何回か売買を繰り返しました。これがかえって株価は動くものだということを身をもって体験することになりました。手数料をだいぶ取られてしまったのも勉強になりました。

## 参加を終えて

生徒はテレビのCMや自分の興味のある分野の企業の名前しか知りません。STOCKリーグでは、全然聞いたことのなかった企業について知ることができます。また、名前を知っている会社でもこの会社はこんな仕事もしているのだという気づきもあります。それが一番の収穫だと思います。最も苦労したのはレポートの期限が年明け早々だということです。なかなかレポートが進まず、年々年初にあわただしい日々を送ることになりました。

もっと参加チームを増やそうと、授業の中で取り組んでみたこともありますが、授業だけでレポートを完成させることは困難でした。このレポートコンテストの他に、もう少し簡易な形、たとえばポートフォリオと、どうしてこの企業を選んだのかのコメントシートを提出するみたいなものがあると授業で取り組みやすいと思います。

本校での取り組みはどちらかというと、テーマを考えてから動くのではなく、先に行動することからスタートしています。例えば今回は鶴見線の沿線を歩くところから始まりました。まずは身近な

場所を見たり、企業に話を聞いてみるところからスタートするのはどうでしょうか。その中から面白いテーマが見つかるかもしれません。

日経 STOCK リーグは生徒にとってだけでなく、教員にとってもいい経験をさせていただく機会となっています。このような機会を与えていただきまして本当にありがとうございました。



## 第 15 回 NOMURA Award（特別協賛社賞）受賞者コメント

---

### 慶應義塾大学 前多康男 教授

参加数 : 9 回

受賞履歴 : 敢闘賞 : 第 7 回

#### 受賞コメント

#### STOCK リーグ参加の経緯

私の研究会では、3 年時にまず研究会に所属してきた学生をいくつかのチームに分けて、チームごとに研究を行う体制を初めからとっていました。経済学部ゼミですが、金融論およびファイナンスの講義を担当していたことから、金融機関への就職希望および会計士志望の学生が多く在籍しています。当初は各チームで経済問題に関する研究をまとめたり、試合形式のディベートなどを行ったりしていたのですが、ホームページで日経 STOCK リーグのことを知ってからは、毎年日経 STOCK リーグに参加しています。学習については、金融論、マクロ経済学の経済理論を学ぶ一方、企業価値理論、ポートフォリオ理論、経営分析などの手法を勉強しています。

#### STOCK リーグの取り組みについて

日経 STOCK リーグに関してはテーマの選定が最も重要であると考えますが、この選定に関しては、チームの自主性にまかせています。テーマが決定するまで、私が助言を与えることはありません。あくまでも、自分たちで考えることを最優先にしています。自分達で考え抜いたテーマである故に

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

最後まで頑張れると思っています。指導する側として一番留意していることは全体のスケジュールリ  
ングです。どうしても、分析に時間がかかり、レポートのまとめの時間が少なくなりがちです。今  
回は、特に、分析をいつもより前倒してどんどん進め、レポートのまとめに時間をかけました。結  
果として、レポートの質がかなり向上したと思っています。読む人に分かりやすいように書くプレ  
ゼンテーション能力も重要な要素であると思います。

## 参加を終えて

大学の授業では経済学の理論的な側面を教えています。研究会では、学んだ理論を実際の経済に  
応用して分析を行うことを主眼にしています。チームとして役割分担を行い、色々と学生同士で議  
論を交わし、自ら工夫する必要がある日経 STOCK リーグへの参加は、学生が社会に出たときに先  
導者として活躍する人になって欲しいという私の願いと合致していると確信しています。

## 第 15 回 NOMURA Award (特別協賛社賞) 受賞者コメント

---

### 高崎経済大学 平井裕久 教授

参加数 : 6回

#### 受賞コメント

この度は、名誉ある NOMURA AWARD(特別協賛社賞)を頂きまして誠にありがとうございます。ゼミ生達と共に参加を継続してきた事への評価だと思います。今後も、ゼミ生達が少しでもオリジナルティやクオリティの高いレポートを作成できるよう頑張っていきたいと考えております。

#### STOCK リーグ参加の経緯

参加のきっかけとなったのは、ゼミ活動について考えている際に、先輩である他大学の先生から日経 STOCK リーグについてご紹介頂いたことでした。ゼミでは会計学(企業価値評価)を専門としておりますが、学んだ会計の知識を具体的に活かすことができる場面の一つが株式市場です。そこでゼミ生達と相談し、スケジュールが決まっていた(メ切があり)、しかもイメージの湧きやすい実際の企業を対象としている日経 STOCK リーグへの参加を決めました。企業が公表している財務データや非財務データを、如何に企業の評価に利用するのか、そして、どのようなテーマを持ってポートフォリオを作成するのか、ということ深く考えることで、社会・経済に関わる様々なことを調べ知識とすることができます。これは、ゼミ生達がその後に行う就職活動でも多いに役立っています。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

## STOCK リーグの取り組みについて

日経 STOCK リーグへは、ゼミ 2 回生と 3 回生のグループで参加しています。2 回生は、ゼミに配属されたばかりの後期から参加をするので、メンバー同士があまり知らないところからのグループワークとなります。またゼミ 3 回生は 2 年目の参加となりますので、メンバーの性格を知った上でのグループワークとなります。グループによって進め方は様々で、頻繁に集まって作業するグループもあれば、個々での分担作業を中心として調整をするグループもあります。レポート作成を終えた後には、どのゼミ生も同じ目標に向かって協同することの難しさとお楽しさの両方を理解します。

日経 STOCK リーグへの参加を通じて、社会に出ても重要である組織活動の厳しさと共に、達成感を得ることの素晴らしさも学んでいるように思います。またテーマ決めからポートフォリオ作成までの流れは示しますが、ほとんど具体的なことはゼミ生に任せています。とにかく、若いゼミ生達の自由な興味・発想を尊重し、知識だけに頼らないようにしています。興味・発想から得られた道筋を辿り始めてから、それに関する情報を収集するので、興味を持って知識を習得できていると思います。

## 参加を終えて

日経 STOCK リーグへの参加でゼミ生達が苦労するのは、「テーマ設定」、「調査」、「グループワーク」、そして「レポート作成」だと思います。例えば、算数の授業では、「 $2+3=?$ 」と解を要求されます。しかし、日経 STOCK リーグでは、まず自らが「？」を設定しなければなりません。

<http://manabow.com/sl/result/index.html>

そこには、グループメンバーの共通した“強い想い”が必要です。そして、それを実現するために「2+3」にあたる計算過程を考えなければなりません。 「1+2+2」でも、また「1×5」でも良いので、「？」を実現するための過程は無限に考えられます。そのため、書籍、インターネット、人（アンケート）等から多くのデータを収集することになります。収集されたデータは、工夫を凝らして分析を行わなければなりません。この時、全メンバーで知恵を振り絞って協力しなければなりません。メンバーの性格は画一的ではないので、グループ内での（人間関係の）調整が必要となります。そして最後には、ポートフォリオ作成に至るまでの全てを伝えるレポートを書かなければなりません。このように、日経 STOCK リーグへの参加は、学生達が多くの事を学ぶ機会になると思います。ゼミ生達は、日経 STOCK リーグ参加によって、これまで知らなかった多くの事（会計・ファイナンス・経済等の知識、企業およびその活動・・・）を目の当たりにし、ファイナンシャル・リテラシーだけではなく社会人になるスキルを得ているように感じます。

日経 STOCK リーグという有意義なコンテストをご支援頂いております日本経済新聞社（主催）、野村グループ（特別協賛）、関連団体、そして STOCK リーグ事務局の皆様には厚く御礼申し上げます。